

## 本 会 記 事

### 1 昭和43年度総会ならびに研究発表会

四国植物防疫研究協議会昭和43年度総会ならびに研究発表会は、11月14～15日、農林省四国農業試験場において開催され、約70名が出席しました。

#### (1) 総 会

11月14日午後1時から総会が開かれました。安孫子孝一会長の開会の辞があった後、昭和42年度会務報告がおこなわれ承認されました。議題として、昭和43年度事業計画ならびに昭和43年度予算が上程され、原案どおり承認されました。

#### (2) 研究発表

11月15日午前9時半から午後2時半まで、次の10題の研究発表がおこなわれました。

以西信夫：2, 3のそ菜害虫に対するランネートの効果について。

寺岡義一\*・浜岡重夫：温州ミカンの訪花害虫の防除について。

笹波隆文：ツマグロヨコバイの殺虫試験法。

西内美武\*・高木俊輔・斉藤正：ショウガ立枯病に対する(土壌)殺菌剤の効果。

木谷清美・大畑貫一\*・久保千冬：穂枯れに対する薬剤類の効果の検討。

以西信夫\*・柏木彌太郎・谷幸泰：水稲ならびにレンコンを加害するイネネクイムシの防除について。

大熊衛\*・尾崎幸三郎：ヒメトビウンカにおけるマラソンまたはスミチオン抵抗性の発達について。

清家安長\*・高山昭夫・吉岡幸治郎：水田害虫のサンプリングに関する研究(第2報)、りん剤抵抗性ヒメトビウンカのエステラーゼ反応調査におけるサンプリング法。

木谷清美・山本孝彦・木曾皓\*：イネ縞葉枯病に対するキルパールおよびダイズストン粒剤とその併用の効果。

浅田泰次：欧米奥の細道。

(\*は演者)

研究発表会に先だち、14日午後4時半から1時間にわたり、本会初の試みとしてシンポジウムが開かれました。河野達郎氏による“混合剤の効力を評価するための簡単な統計的方法について — とくに相乗効果検出のための要因分析法”と題する講演の後、活発な討論がおこなわれました(講演ならびに討論については、本誌 pp. 93 ~ 97 を参照)。

#### (3) 協 議

11月14日午後2時から4時半まで、四国4県の病虫害発生概況をもとに、防除その他当面する諸問題が討議されました。

### 2 明年度総会

昭和44年度の本会総会は、昭和44年11月ごろ、高知県において開催されることが決められました。